

昭和十九年度産銅実況に八九〇圓八七六（産金五三一・八圓、産銀一六八一九圓）に達したが終戦と共に其産額は急転下落した

(四) 朝鮮労働者事情

日支事変の拡大と共に傭員の応召漸く増加し増産計畫遂行上困難を来し内地求人絶対不可能の状態にありたれば昭和十五年二月朝鮮労働者九八名を募集し五月二四八名、十二月三〇〇名、昭和十六年二八〇名全十七年七九名、十九年二六三名、二十年二五一一名計一、五一九名を移入したが終戦と同時に残留人員一〇九六名を送還した、在山中の待遇賃金制度、稼働奨励方法等概ね内地労働者と同一で主として坑内夫として就労し請負単価により稼高に依り賃金を支給し、一ヶ月の稼働成績に依り精勤賞与を与へ扶養家族の多寡及稼働日数に依りて米価補給を行ひ毎年二回の勤労賞与を交附し一般に家族持労働者には社宅の無料貸与、共同浴場施設、米、味噌、醤油其他生活必需品は購買会にて廉価配給及家族傷病の場合の診療等を実施し単身者は寄宿舎（三個所に収容し舎費を徴せず食事は内地人同様の調理にして一日五十銭（実費の差額は会社負担）寝具使用料一ヶ月一組五十銭にて貸与し光燃費浴場費は会社負担其他作業用品衣服履物等日用品の購入払下は購買会を通じて廉価に行ひ蔬菜類不足の折柄鑛山直営の農園から補給した尚又全従業員を以て組織せる協和会（当時産業報国会）に入会せしめ従業員の親和、修養、給済、境遇改善、能率並に福祉増進を図る、協和会に於ては随時映畫会、講演会、遠足会、運動会其他祭典催物を開催し尚各寄宿舎には娯樂室を設け雑誌、朝鮮将棋、蓄音機、ラジオ等を設け慰安娯樂と趣味の向上に努むる等遺憾なきを期した、其他勤続三ヶ月以上に及びたる時は団体生命保険に加入せしめ各人在籍中の保険料は一切会社負担し万一不幸ありたる場合保険金三百円を贈呈し災害に対する扶助、退職の場合の給与関係等につき内鮮区別なく移入当時は一人一日一升程度を普通とし漸次減食せし特に配給米実施後は盛切り飯とし配給米の特に不足を来せる場合は甘藷、大根、乾麵等の混食にて間に合はせた、昭和十八年五月に於ける職種別人員及び内地労働者との比率は左の如くである

朝鮮人	一三三	五六一	二九四	八	四九	三	三一	一九	一一	五八四
内地人	二七	三九	八〇	一九	一七	二三	四六	八五	五二	三二一
内地人一人 に対する比	四・五一	一・四三	六〇・四二	八〇・三〇	四六〇・三三	〇・三〇	四六〇・三三	〇・三三	〇・三三	〇・三三

昭和十九年、二十年に於ては朝鮮人労働者増加数五一四人に上り歴倒的労働者であつた概して訓練又は指導よろしきを得たる如く終戦に際しても他地方に見る如き暴状等もなく帰還せしむるを得た

(五) 敗戦後の操業状態

日支事変勃発以来九ヶ年、太平洋戦争進行三ヶ年未満原子爆弾の威力克く日本国土を支離裂開させるに十分であり疲弊せる国民の戦闘意識